

平成18年 8月 30日

環境・生命工学専攻	学籍番号	049404
申請者氏名	戸田 敏行	

指導教員氏名	建設工学系	大貝彰教授
	建設工学系	渡邊昭彦教授
	建設工学系	廣嶋康裕教授

論 文 要 旨(博士)

論文題目	県境地域における地域連携活動に関する研究
------	----------------------

(要旨 1,200字程度)

県境地域は、我が国最大の自治体である県の行政境界地域であるために、地域を一体的に計画・管理する行政主体が存在しない。一方、県境地域には、山間部の過疎化、自動車社会の浸透による都市部の行動拡大という県境を越える地域問題が存在している。また、人口減少・財政制限化における国土計画としては、県境を越える資源の有効利用が求められている。こうした状況から、県境を越える地域連携が多数出現するに至っている。また、地方分権による市町村合併、県権限の強化、長期的な道州制の導入などの自治制度変化は、県境地域における地域連携の必要性を将来的に増加させるものと考えられる。こうした社会的な背景から、本論文は、県境地域における地域連携手法の開発を最終的な目的としている。

上記の研究目的を達成するために、第1に県境地域連携の主体と考えられる連携組織に着目し、全国65組織（57県境地域）の活動実態を分析した。その結果、連携組織の分類、連携活動の類型化、連携地域の類型化を行い、これらの相互関連性から連携組織活動の特徴と課題についての知見を得た。第2に、組織活動を計画的に発展させる視点から、県境地域全体を対象とした地域計画に着目し、県境地域に属する自治体意識および既存計画の分析を行った。その結果、県境地域を対象とする地域計画の類型化、県境を越えた連携事業の目的を明らかにし、計画類型と連携事業の関連性、計画に対する自治体の評価についての知見を得た。第3に多様な連携活動を促進する視点から、愛知・静岡・長野の県境地域である三遠南信地域を対象として、既存の地域計画、住民の県境地域連携意識、実施された連携活動の分析を行った。その結果、地域計画が実施される際の特徴、住民の連携意識と実施された連携活動との比較、活動を実施する際の組織連携方式の特徴を把握した。第4には、市町村合併による県境連携意識の変化に着目し、57県境地域での合併形態の変化および自治体の連携意識変化、県境住民の連携意識変化を分析した。その結果、県境地域規模や自治体の合併形態と、自治体の連携意識の差異を明らかにした。また、事例地域として浜松市を取り上げ、住民の行動内容や居住地による連携意識の差異、連携を担う機関の特徴を明らかにした。

これらの分析に基づいて、県境地域における地域連携手法として、第1に現在の県制度下で推進される国土形成計画において、①全地域的な県境地域政策の位置づけ、②身近な地域連携の促進、が必要であること、第2に道州制導入に際して道州境を越える広域行政制度を補完的な行政システムとして設けることを提案した。